

22・23層 1-1区

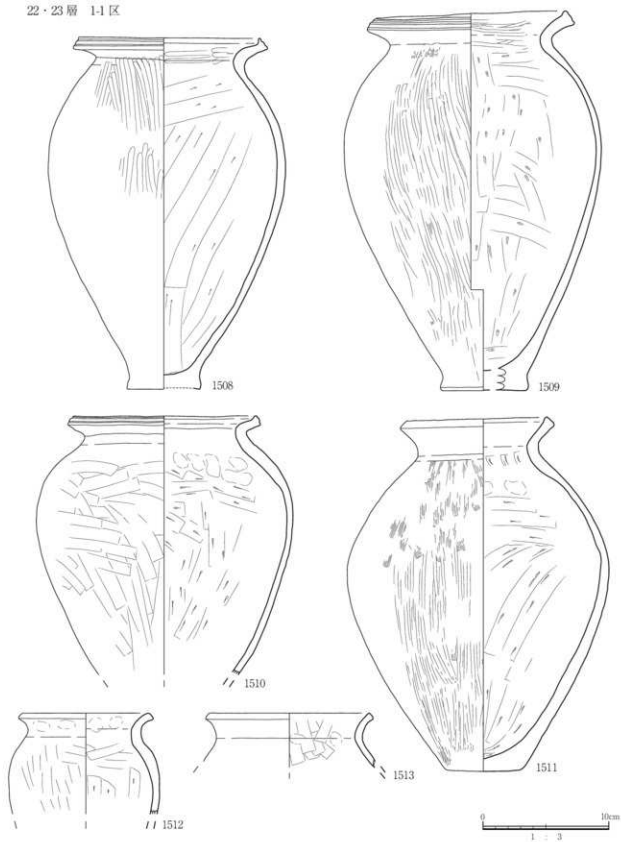


図433 SR25 出土遺物 28

は土師器高杯である。1473の口縁部内外面には散漫なミガキが施される。1476・1477は弥生土器鉢である。

1478～1486は18層1-8区からの出土で、1478～1481は弥生土器壺である。1478は胴部、頸部の外面に沈線文と刻目文突帯、口縁部内面に4段の刻目文突帯が施されており、加飾性に富む。1479は短頸壺で口縁端部上面に凹線文をもつ。口縁部には円形透孔が穿たれている。1481は複合口縁壺だろう。1482・1483はヨコナデが顕著な弥生土器甕である。1484～1486は弥生土器高杯である。1484の口縁端部は内外に拡張し、端部上面に3条の凹線文を伴う。1486の脚部には2段の矢羽根形透孔が認められるが、上段の透孔は未貫通である。

1487～1503は18層から出土した。1487～1493は弥生土器壺である。1487・1488は短頸広口壺、1489～1491は短頸直口壺でいずれも明瞭な凹線文を伴う。長頸壺1492の頸部には凹線文状の沈線

22・23層 1-1区

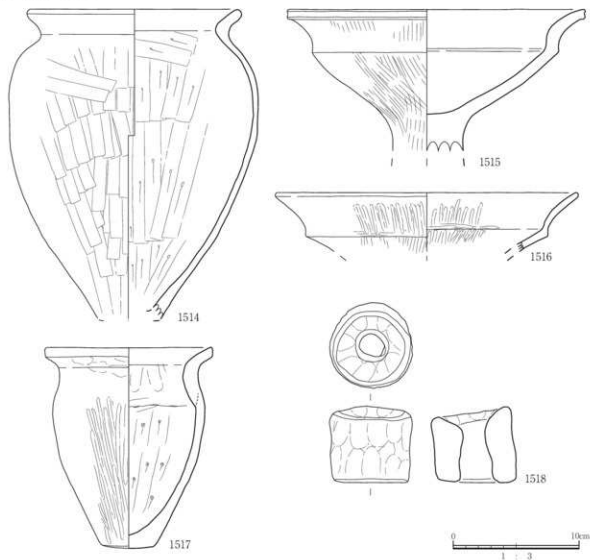


図434 SR25 出土遺物 29

土器溜まり1 14層相当

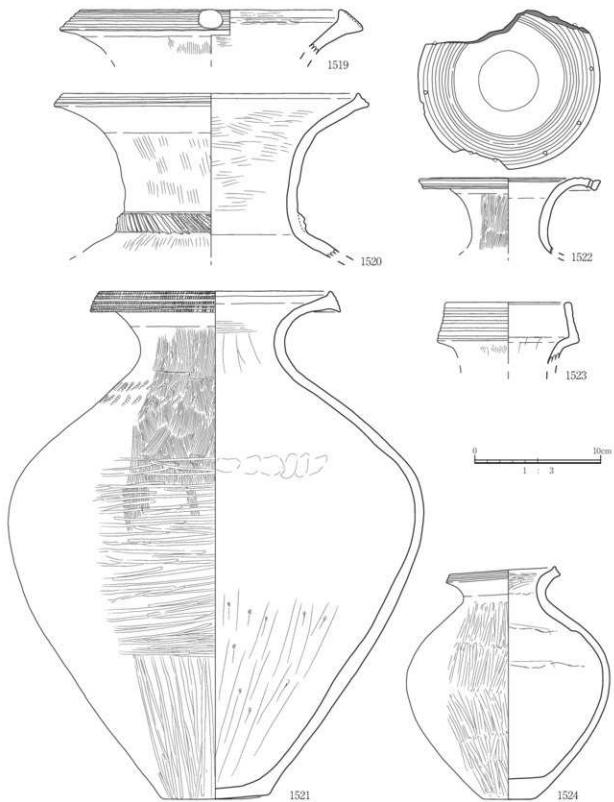


図435 SR25 出土遺物 30

土器溜まり 1 14 層相当

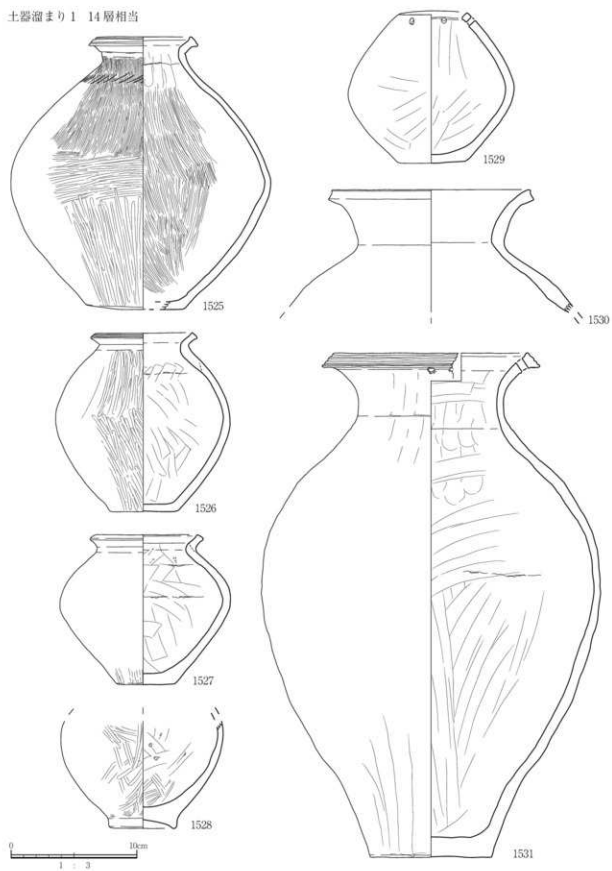


図436 SR25 出土遺物 31

土器溜まり1 14層相当

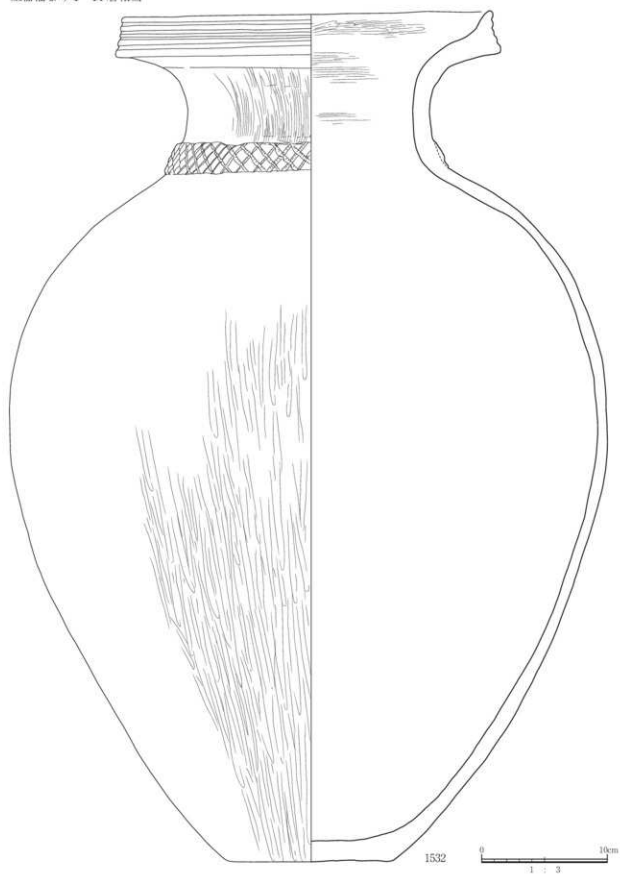


図437 SR25 出土遺物 32

土器溜まり1 14層相当

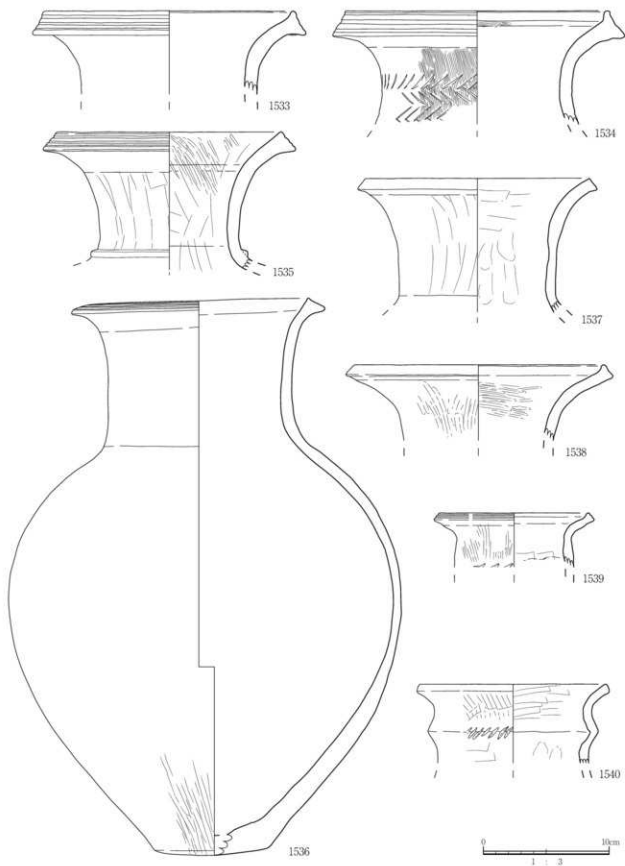


図438 SR25 出土遺物 33

文が5条巡る。1494～1499は弥生土器甕である。1494はヨコナデによる口縁端部外面の凹線文を伴う。1495の口縁端部は上方に拡張するが、口頸部境の屈曲は弱くなっている。1498・1499は小型の甕である。弥生土器鉢1500は櫛描文による弧状の記号文らしきものが描かれる。1501～1503は弥生土器高杯である。裝飾高杯1502は脚部や柱部に円形透孔をもつ。

1504～1518は22・23層1-1区からの出土である。1504は弥生土器壺で、頸部が短く、口縁部が直立して凹線文を伴う。1505～1514・1517は弥生土器甕である。1505・1506はヨコナデによる口

土器溜まり 1 14 層相当

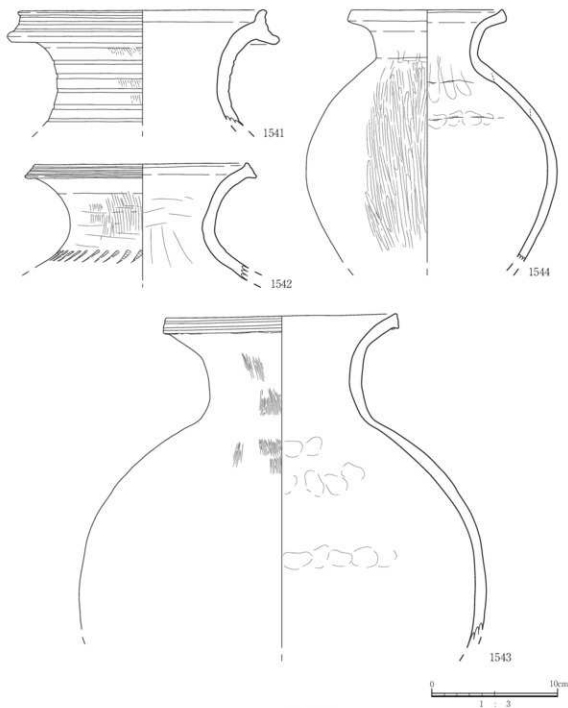


図439 SR25 出土遺物 34

土器溜まり1 14層相当

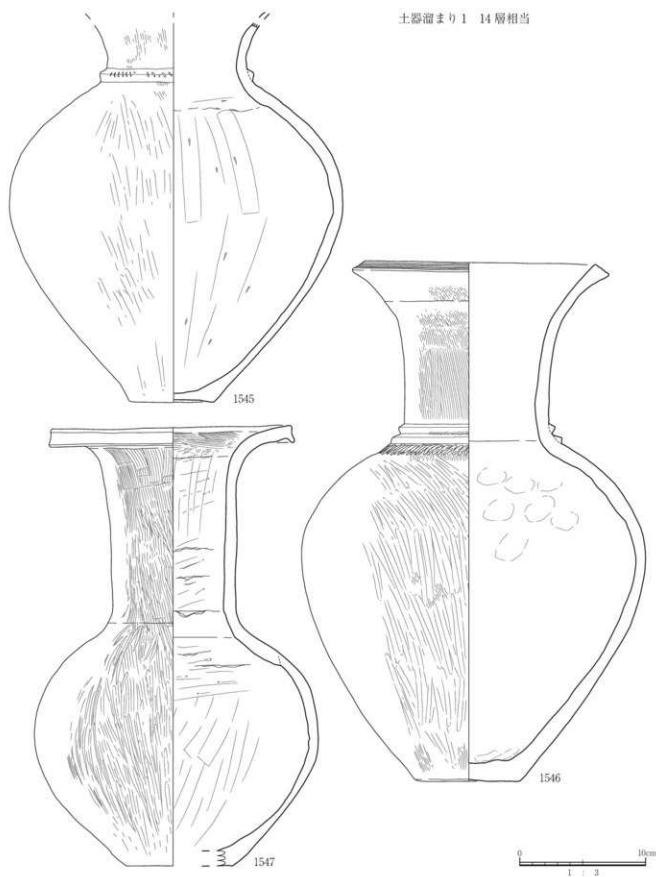


図440 SR25 出土遺物 35

土器溜まり 1 14 層相当

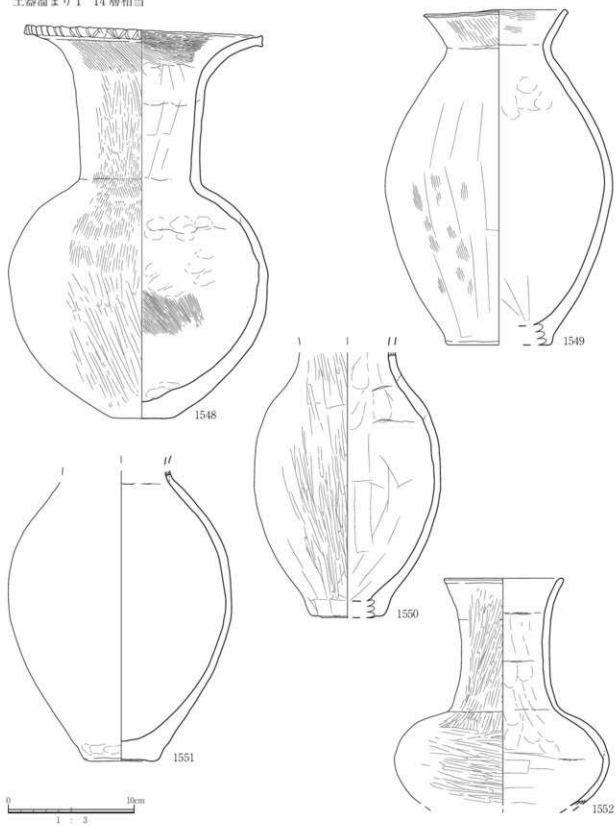


図441 SR25 出土遺物 36

土器溜まり 1 14層相当

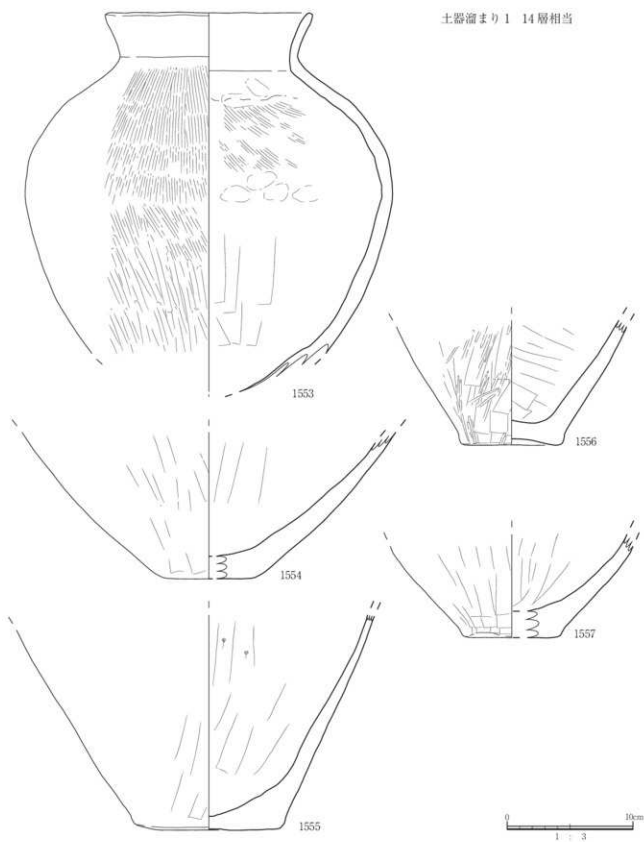


図442 SR25 出土遺物 37

土器溜まり 1 14層相当

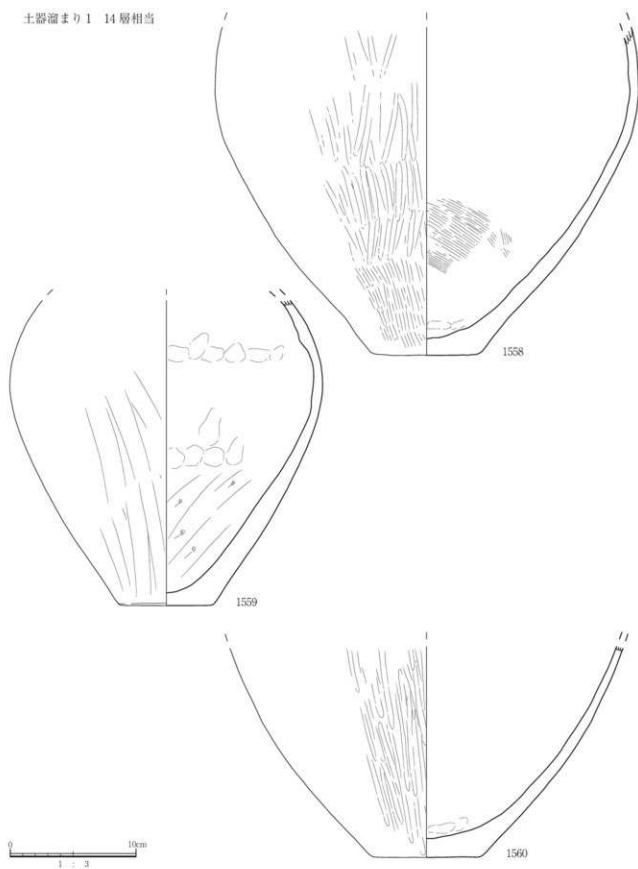


図443 SR25 出土遺物 38

土器溜まり 1 14 層相当

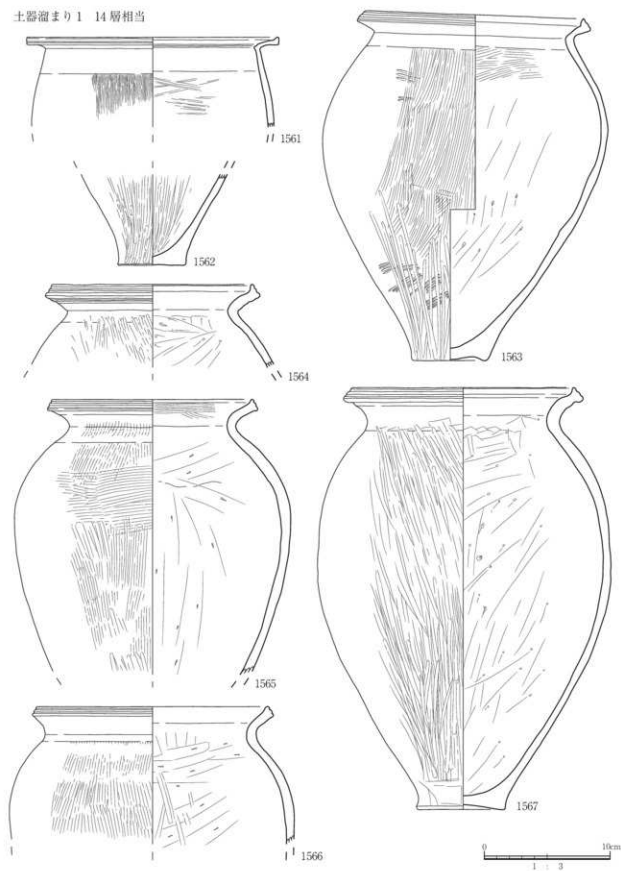


図444 SR25 出土遺物 39

土器溜まり 1 14 層相当

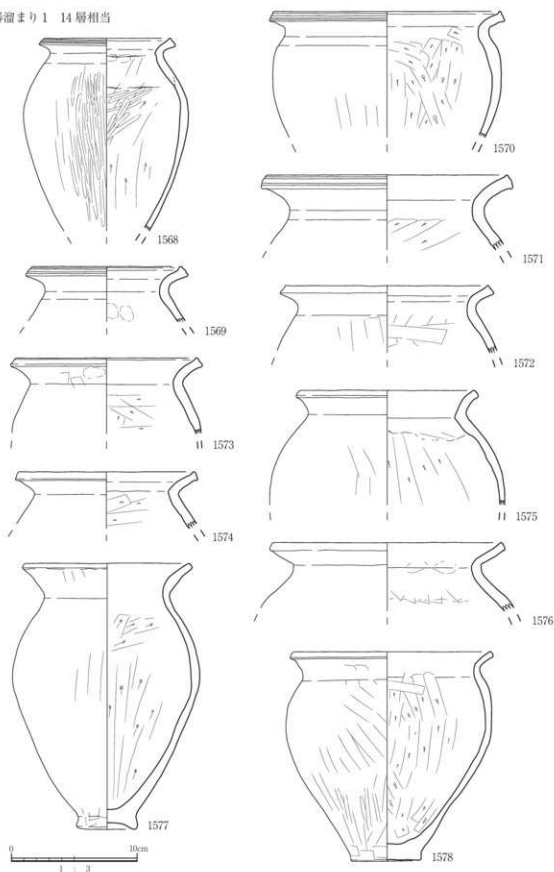


図445 SR25 出土遺物 40

土器溜まり 1 14 層相当

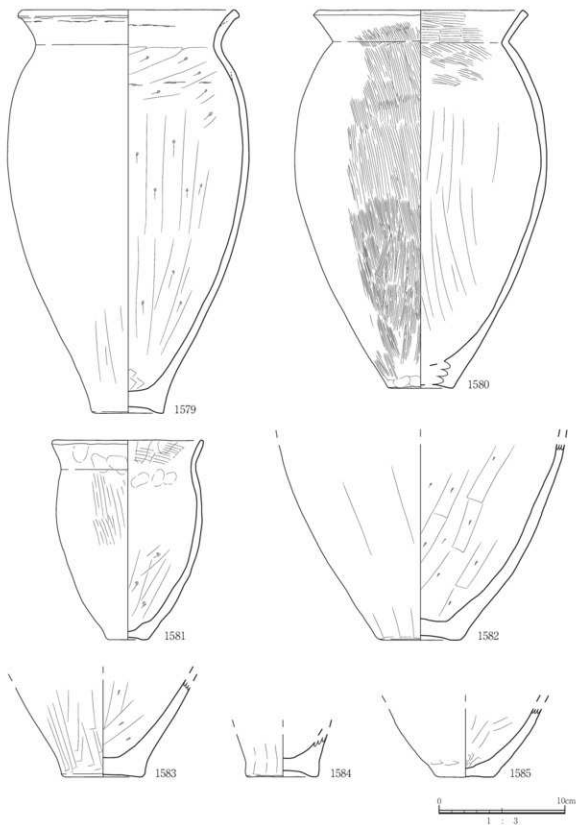


図446 SR25 出土遺物 41

土器溜まり 1 14 層相当

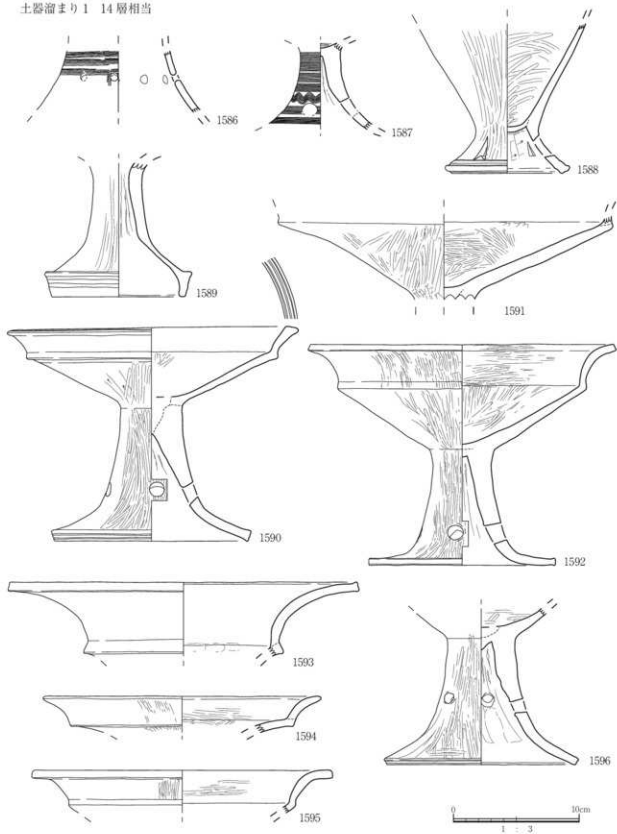


図447 SR25 出土遺物 42

土器溜まり 1 14層相当

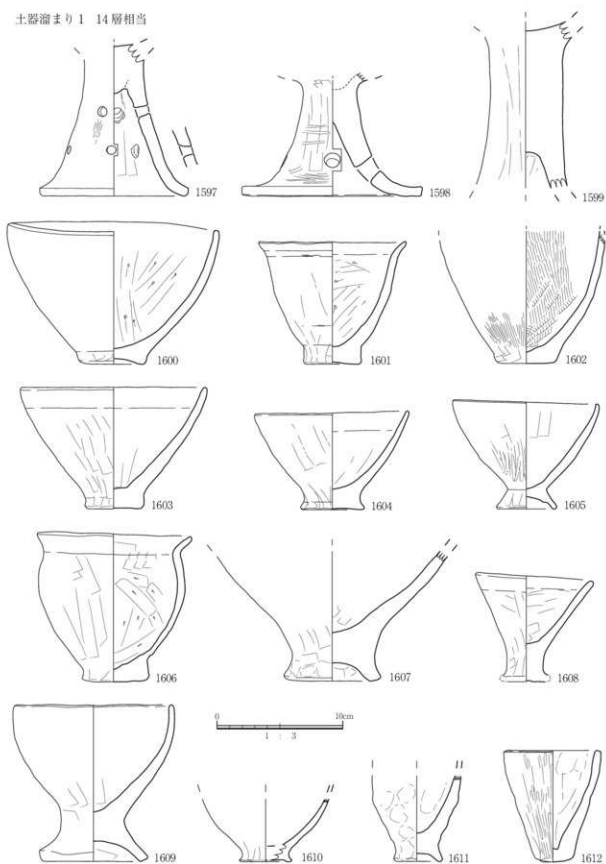
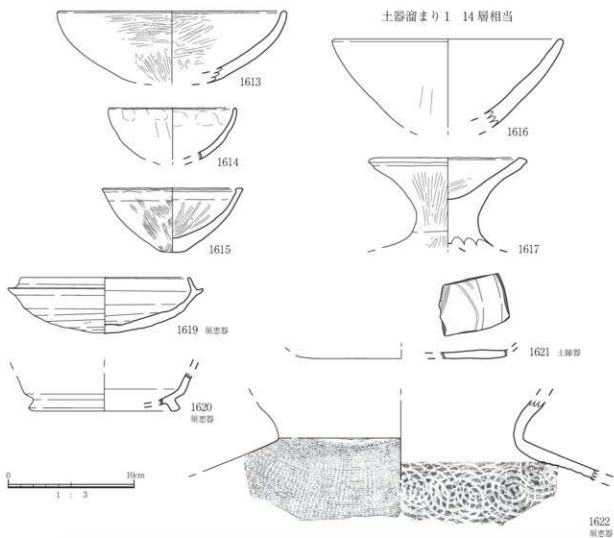


図448 SR25 出土遺物 43



土器溜まり2

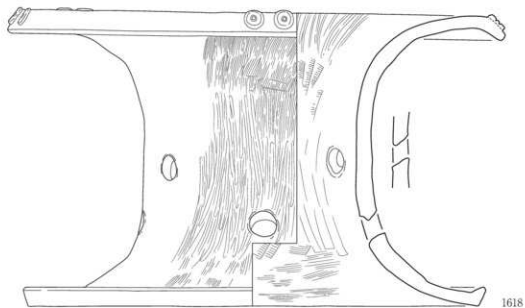


図449 SR25 出土遺物 44

土器溜まり1 18層相当

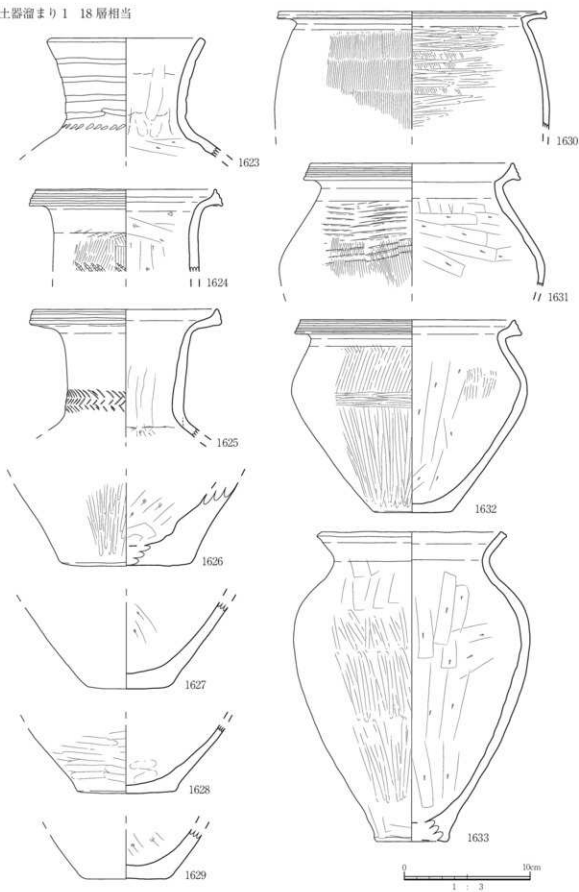


図450 SR25 出土遺物 45

縁端部外面の凹線文を有する。1507～1514・1517の口頸部境の屈曲は弱い。1507～1510の口縁部外面には凹線文が残存する。1515・1516は弥生土器高杯である。1518は弥生土器支脚で、背の低い円柱状を呈する。

1519～1622は土器溜まり1・14層相当出土の遺物で、1519～1560は弥生土器壺である。広口壺1519の口縁端部には凹線文の上から円形浮文が貼付されている。大型の短頸広口壺1521は口縁端部外面に4条の凹線文と細かな刻目文、胴部上位に2段の列点文が施されている。広口壺1522の口縁部付近には円形孔が穿たれている。1524～1527は短頸の壺で1524～1526の拡張する口縁端部には凹線文がみられる。無頸壺1529の口縁端部には円形孔が認められる。1531の口縁端部付近には2孔一対と推測される円形孔が穿たれている。広口壺1532～1535の口縁端部は拡張して凹線文を有する。1534の頸部には列点文が矢羽根状に配される。1536・1537は長頸壺で1536の拡張する口縁端部には凹線文が残る。1540は複合口縁状に外に突出し、突出部に刻目文がみられる。1541の頸部には凹線文状の沈線文が巡る。1547～1548は長頸壺で1548の口縁端部には刻目文が施されている。1549～1551は細身の胴部を有するタイプで、1549は弱い頸胴部境から口縁部が短く伸びる。1552は張り出す胴部と長い頸部をもち、外面はほぼ全面にミガキが施される。1553は短い口縁部を有する。1561～1585は弥生土器甕である。1561はヨコナデにより屈曲の明瞭な口頸部境と

土器溜まり1 18層相当

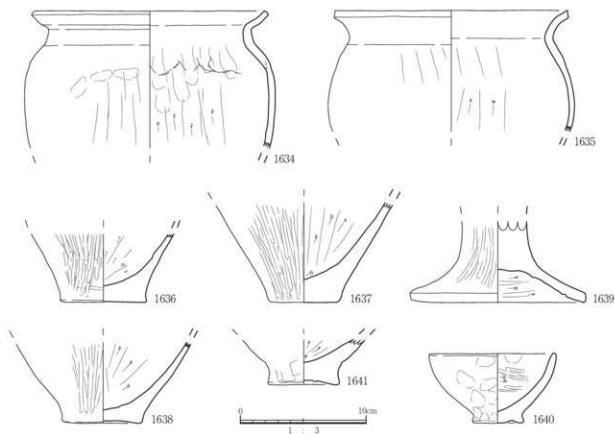


図451 SR25 出土遺物 46

口縁端部の凹線文をもつ。底部1562は1561のような口縁部に伴うのだろう。1563・1564は口頸部境の屈曲が明瞭で、1565～1578は同箇所屈曲が弱くなっている。1563～1571の口縁端部外面には複数列の凹線文が認められる。1579～1581は胴部が細身で短い口縁部をもつタイプである。1586～1599は弥生土器高杯である。1586は3帯の飾描文の下位に円形透孔が巡る。1587の脚部に

土器溜まり2 14層相当

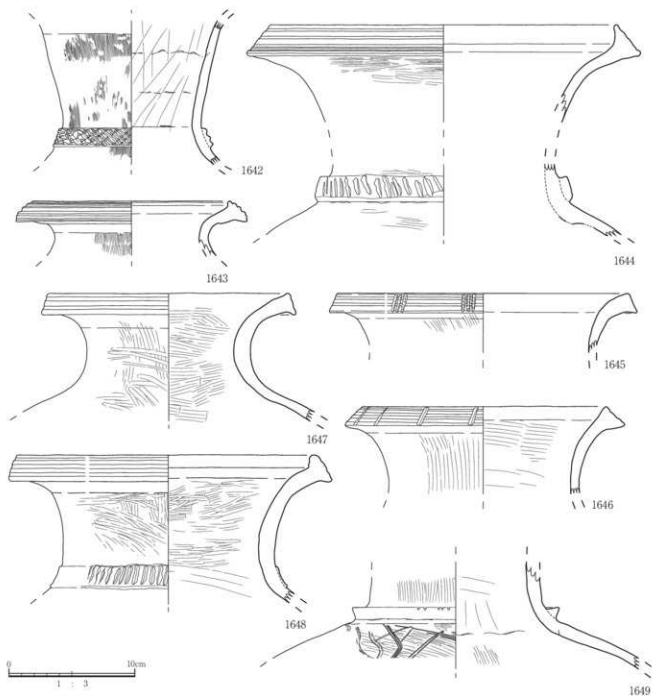


図452 SR25 出土遺物 47